

令和8年度



園だより 7月号

杉並区立下高井戸子供園

教育目標 “しあわせいっぱいの子供園”

○もりもりそだつげんきなからだ ○たいせつななかまとじぶん ○かんじるころとあたま

わくわくランド、大成功！

主任教諭 年長組担任 伊藤 優香

年長ぞう組は、5月に遠足で井の頭自然文化園に行きました。友達と一緒に動物を見たり、スポーツランドの乗り物に乗ったりする遠足は学級のみinnで経験できる、とても貴重な共通体験です。その共通体験を基に自分たちが楽しかったことをくま組やうさぎ組にも伝えようと、みんなでわくわくランドをすることになりました。昨年度の年長さんに招待してもらったわくわくランドを思い出す子もいました。

わくわくランドは、昨日、今日でできるわけではありません。2～5人のグループに分かれて、どんなことをしたいかを相談することから始まりました。必要なものやつくりたいもの、役割を考えて、準備を進めました。

はじめはなかなかみんなのめあてや、みんなで進める意識がもてず、一人で勝手に色を塗ったり、途中で抜け出したりすることもありました。それでも少しずつ考えたことが形になってくると嬉しくて、更に進めたいと感じるようになり、わくわくランドの完成を心待ちにするようになりました。

準備は進めてきたけれど、本当にお客さんが来た時には何が必要なのだろう…。

そこで、それぞれのグループで考えた役割分担を実際に行いながら、ぞう組だけで遊んでみることにしました。

すると、「看板が見えなくてスタンプを押す場所が分からなかった」「すごく忙しかった」など、ただ「遊んで楽しい」だけでなく、お客さんを迎えるために必要な気付きが子どもたちから出てきました。気付きのあることは、わくわくランドがより楽しくなるためにとても大切です。気付いたことをできる限り、修正してわくわくランド当日を迎えました。

当日はくま組、うさぎ組を迎えて、自分のお店の呼び込みをしたり、遊び方を教えたり、乗り物を動かしたりするなど自分の役割に一生懸命取り組みました。自分よりも小さな子に優しく関わろうとする姿が頼もしかったです。「ここまでつくるの大変だった」と言いながらも、子どもたちの顔は満足感や達成感に満ち溢れていました。「わくわくランド、大成功！」

わくわくランドを通して自分たちでイメージしたことが実現する楽しさや、友達と協力すると一人ではできない大きなものをつくれること、学級のみinnで大きなめあてに向かう楽しさを感じることができました。このような経験は、子どもたちをもっともっと大きくしていきます。